

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	平成29年度第2回地域保健計画推進部会				
開催日時	平成29年7月31日(月)午後7時00分～8時40分				
開催場所	いきいきプラザ2階学習室				
出席者及び欠席者	<p>●出席者：(委員) 大木幸子部会長、嶋原健二副部会長、川崎由香里委員、浅谷哲也委員、長島浩二委員、杉本美恵子委員、森田徳子委員、武者吉和委員、種市幸実委員、曾我部多美委員、池本昇委員、高橋照定委員、和田恵子委員、橋本政紘委員、栗原恵子委員、小島恵子委員</p> <p>(市事務局)</p> <p>【健康福祉部】河村次長</p> <p>【健康増進課】花田課長、江川課長補佐、小澤課長補佐 鈴木管理係長、原田主任保健師、荻野主任保健師、丸山主任保健師、内村主任歯科衛生士、松田主任管理栄養士</p> <p>【地域福祉推進課】新井課長、大塚計画担当主査</p> <p>【保険年金課】菅野医療費適正化担当主査</p> <p>【子ども家庭部】瀬川次長</p> <p>【子育て支援課】嶋田課長、齋藤母子保健係長、八丁母子保健担当主査、大熊主任保健師、橋本主任保健師、横山主任保健師、大塚主任保健師</p> <p>【コンサル】(株)アイアールエス</p> <p>●欠席者：水戸部瑞江委員、藤原幸博委員</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	なし
会議次第	1 開会 2 委嘱状の交付 3 挨拶 4 報告 (1) 第1回地域福祉計画策定委員会について 5 議題 (1) 「第4次地域保健計画・健康ひがしむらやま21」及び「東村山市母子保健計画」の評価と課題整理 (2) その他 6 閉会				
問い合わせ先	健康福祉部健康増進課成人保健係 担当者名 小澤 電話番号 042-393-5111(内線3219) ファックス番号 042-394-7399				

会 議 経 過

1 開会

2 委嘱状の交付

3 挨拶

4 報告

●会長

本日は、次期の計画に向けての今期計画の評価を行う。事務局からの説明をいただき、生活実感だとか、職務上感じておられることなど率直にご意見をいただきたい。

(1) 第1回地域福祉計画策定委員会について 資料2

●事務局

地域福祉推進課より、「(1) 第1回地域福祉計画策定委員会」について資料2を基に説明

●部会長

6月29日に行われた「第1回地域福祉計画策定委員会」の内容も含めて、今期検討する流れを説明いただいた。ご質問等あるか。

●部会長

特に無いようなので、次の議題に進む。

5 議題

(1) 「第4次地域保健計画・健康ひがしむらやま21」及び「東村山市母子保健計画」の評価と課題整理 資料3 資料4 資料5 資料6

●事務局

健康増進課より、「第4次地域保健計画・健康ひがしむらやま21」について、資料3、資料4を基に説明

子育て支援課より、「東村山市母子保健計画」について資料5、資料6を基に説明

●部会長

資料が膨大なので、まず、前半に説明があった資料3の1ページの内容について、ご意見あるか。

前回、第1回会議の中で、調査報告で「医療情報が一番市民の人たちは知りたい」という結果が出ていて、市では、健康ガイドを出していて、そこには医療マップも掲載している。評価では、市民が期待する質的な評価が欲しいというところで、行政がどこまで出せるかということが課題という話があった。

●委員

P1・基本目標1(1)①「地域団体間の協力体制の促進」では、保健推進員のことが書かれているが、社会福祉協議会も保健推進員の推薦母体に入っている。まさしく

介護予防だとかを推進する方々ということで、今いわれているのが、地域福祉の分野で、これからは行政や社協だけではなく、住民も巻き込んで協働で進める「地域づくり」が大事である。

昨年の介護予防大作戦中央大会で東京都の高齢担当職員も、これからの介護予防は「地域づくり」がキーワードになってくると述べていた。「自治会等とのつながりを」といわれているが「地域づくり」ということがキーワードになってくるので、そういう文言が入るとより推進できるのではと思った。

●部会長

次期の計画についてのご意見ということで承る。

●委員

基本目標3(1)「健康意識の向上」と入っているが、これは、基本目標1「みんなでつながり、参加する東村山の福祉」という大きなくくりの大事なところなのではと思う。場所を変えてもう少し強調されてはどうかと感じた。

●部会長

現行の計画を中心にライフスタイルを遂行していくための地域での取り組みの体制が示されている。

●委員

基本目標1(1)①と、主な取り組み内容が重なる部分があるので、ここは今後検討いただきたい。

●部会長

次回会議が次期計画の内容の検討になるかと思うのでその中で議論していきたい。現行の計画で課題と感じていることはないか。

●委員

前任の委員からもいわれているかと思うが、東京都の中で「2歳児健診」をやっていないのは東村山市だけなので、1歳半から3歳までの1年半の間に虫歯が増える率が東村山市は増えている。必ずしも2歳児健診をやったからといって虫歯の罹患率が下がるとは思いませんが、少なからずは影響しているのではないかと思う。公立保育園の園医会の中で、保健所からもデータとして出ているという話があった。4歳から5歳までの1年間でも虫歯にかかる率が高く、圏域5市の中でトップであるとのこと。このあたりは早急に考えるべきと思う。

●部会長

資料6の資料に指標が出ている。乳幼児の歯科保健をもう少し強化されるべきとの意見が出た。

●委員

基本目標3(2)食育の推進のところ、今後のことになるが、栄養講座で、「フレイル」に向けての取り組み、筋力を保つための食事のこととかできるとよい。

●部会長

今後、高齢の健康づくりから介護予防へとつなげていくために「フレイル」という概念は大事かと思う。

●委員

P3（7）介護予防の推進、今後の方針課題のところに大変重要なことが書いてある。次期計画では介護予防の地域包括ケアシステムのところをもっと具体化してはどうか。

●部会長

介護予防のしくみを作っていくというところは大事なご意見だと思う。
少し前に戻り、がん予防対策、特定健診、いわゆる生活習慣病対策のページについて何かあるか。他市と比べて、がん検診の受診率が低いという説明があったが。

●委員

受診期間を5か月から7か月に拡大とあるが、これをやったことによって、受診率の向上があったのか。例えば、歯科でいうと、妊婦健診を昨年度までいきいきプラザでしか受診できなかったが、各クリニックで個別に受診できるようになった。それにより倍以上の受診があり、効果があった。

●事務局

資料4に経年受診率があるが、それほど上がっていない。このような状況を踏まえて、「がん検診に関する実態把握調査」を実施して、市の課題等を把握して今後の方向性を考えていきたいと思っている。

●部会長

東村山市のがん検診の案内はどのようにしているのか。

●事務局

「東村山市健康ガイド」に1年間の検診予定一覧表を掲載し、4月1日号市報に折込み全戸配布している。その他、検診の募集のつど市報と、HPに掲載している。また、乳がん・子宮頸がんについては、特定の年齢に対し無料クーポン券を個別送付し受診勧奨、再勧奨を行っている。大腸がん検診については、特定の年齢に対し個別の受診勧奨・再勧奨を行っている。

●委員

「胃がんリスク検診」を昨年度立ち上げた。準備不足というところもあったようだが、かなり受診率が低かった。その辺りをどのように周知して、受診につなげていくかを今後考えていかななくてはいけないと医師会の中で話があった。

●部会長

都内の他市の取り組みでもABC（胃がんリスク検診）を導入して、初年度は国の推奨するがん検診と並行で実施していたが、ABCの方が、受診率が上がったところもある。周知の仕方、受診率が変動すると思うので、この辺りも次期に向けて検討していきたい。

次に3ページ目で何かあるか。説明では、健康ひがしむらやま21の指標で目標達成できてないところがあるということだが。

(8)「地域医療体制の充実」というのが一番下にあるが、私の中のイメージでは東村山市は在宅医療の先進地というイメージがある。難病ケアとか早くから取り組んできている地域と思う。ご意見あるか。

また、最後のページ「4福祉を推進していくためのまちづくり」についてご意見あるか。

●委員

特に意見なし

●部会長

無いようなので、母子保健計画に進む。資料5、資料6についてご意見あるか。

●委員

課題の2の主な取り組み、地域保健と学校保健の連携の取り組みの中で、「秋津・青葉子どもまつり」における子育て相談・足指力測定を行った。とあるが、伝え聞いたところでは、先生たちが子どもたちに「地域と関わる」ということを熱心に教育されていると聞いたことがある。例えば、保健推進員が地域の学校の子どもたちと健康測定会で関わっていてもいいのかなと思う。地域保健と学校保健の連携強化で何かいい施策があれば。地域と学校で顔が見えてくれば、つながりが強くなる。健康教育も小さいころからやっているとよい。

●部会長

学校と地域の連携ということで、地域側から学校連携できることがあればということである。ご意見あるか。

●委員

私の学校で今年から、保健師に保健の学習に入ってもらっている。初めての試みで先ほどご意見いただいたように、健康に関する意識を小さいころから育てておかなければいけないので、地域保健との連携ということで保健師による、担任と一緒に授業や、特に性教育、身体健康、病気というところは専門家なので、教師がフォローできない部分をきちんと話をしてくださる。もう一つ近隣の中学校では、子育て総合支援センター「ころころの森」からお母さんと赤ちゃんに来てもらって、中学生が赤ちゃんを抱く取り組みをしている。妊娠期からの虐待とも絡んで、赤ちゃんを抱くという経験のない中学生も多いので、評判がいいと聞いている。ここ2年連続して行っている。小学生でもそういうこともやれたらいいのかなと中学校の先生とも話したこともある。相談室の設置だと来る人、来ない人がはっきりするので、教育現場の中に少しずつ地域の力を入れられる取り組みを入れていただけるとありがたい。

●部会長

保健師が保健の学習に入るのは、クラス単位の授業なのか、学年合同のような授業なのか。

●委員

学校の希望で、クラス単位でやっていただくようお願いした。

●部会長

よい取り組みだと思う。他にご意見あるか。

●委員

実際に地域に関わっていて、先ほどの委員の話にあった地域と「ころころの森」と一緒に初めて参加した。その時は、30組くらいのご夫婦が、赤ちゃんを連れてきてくださった。最初は、赤ちゃんから離れている中学生もいるが、実際に赤ちゃんを抱っこするととても優しい顔になり表情が変わる。命の大切さを感じられる場で、最後には助産師がとてもよい話をしてくださる。助産師の実体験もあり、いじめられても命をなくさなかったという話。皆、一生懸命聞いていた。中学生がとてもよい表情に変わっていく顔を皆さんに見ていただきたいと思った。

●部会長

その企画は、教育委員会、学校単位の企画ですか。

●委員

学校単位のものである。全校にはまだ広がっていない。

●部会長

指標をみていると、妊娠中、育児期間中のご両親の喫煙率が高い。子どもたちの禁煙教育の中に、小さい命にとってもそれがどういうことなのか話してもらおうと、ライフステージによってどう健康的な習慣を身につけていくかのきっかけにもなると思った。

●委員

父親への育児学級はどのくらい実施されているのか。

●事務局

両親学級は月1回、20組定員で年間延べ240組参加していただいている。お父さんの育児参加をどうやって増やしていこうかというところで、育児の楽しさや、赤ちゃんが生まれた後のお母さんへのサポートを、お父さんに特化した育児学級の必要性が今後の課題であると考えている。

●委員

特に生まれてから1歳までの期間は、お母さんも疲れているので、お父さんがお風呂に入れてもいい。男親もそういう気持ちを持ってほしい。

●部会長

他にご意見あるか。

●委員

母子保健のところで、高等学校文化祭で骨密度測定を行ったところが、新しくて珍しい。いいなと思った。地域保健計画資料3の「骨粗しょう症予防教室」は、おそら

く高齢者向けにやっていると思うので、もっと若いかたを入れていくと将来的にも効果が上がると思う。自主グループの紹介にも、若いかたが入れるようにするとよい。

●部会長

骨粗しょう症予防教室は対象年齢が設定されているのか。

●事務局

基本的には希望者全員である。

●部会長

参加状況としては、高齢者が多いのか。

●事務局

28年度は5歳以上のお子さんも含めて募集した。ちょうど夏休み期間であったため、小学生の参加があった。今年度も同様に募集した。若いかたの参加もある。

●委員

文化祭の話だが、若いかたの骨密度が意外に低いということだ。骨粗しょう症かどうかかわからないが、高齢者だけが骨密度が低いわけではないので、地域と関わりながら学校の中で開催することはよいと思う。

●部会長

子どもたちの健康問題についていろいろ心配な面があると感じる。

●委員

「はがき」「ハガキ」「平成」「H」など文章内の表記の統一をしてほしい。

●部会長

文章の修正をお願いしたい。本日の会議の上で大事だとして指摘をいただいた点は、子どもも大人も市民参加で地域づくりをどうすすめていくかということ、子どもの健康づくりを考えていくことが、合わせて家族全体の健康づくりにつながっていくというご意見でことがあった。本日の議論についてはこれで終了する。

(2) その他

●事務局

子育て支援課より

「妊娠・出産子育てガイド」が配布・説明がされた。

健康増進課より

次回会議開催予定について、9月から11月の間で開催したい。内容は、次期計画の策定について。部会長と事務局で日程調整を行い決定し委員にお知らせしたい。

6 閉会

以上